



## 「新しい旅立ち」

～人生のあらゆる局面での心の決断～

「信仰に生きたこの人たちは、神に約束されたものを手にしてから死んだのではありません。しかし彼らは、約束のものが待っているのを望み見て、心から喜びました。この地上がほんとうの故郷ではなく、自分がほんのつかの間、滞在する旅人にすぎないことを自覚していたのです。そう認めた時、彼らは心から、天にある故郷を慕い求めました。もし彼らに、この世の魅力ある生活に戻る気があったなら、いつでも戻れました。しかし彼らは、それには目もくれず、神が用意された天の都を一心に見つめていました。それで神は、彼らの神と呼ばれることを誇りとなさったのです。」ヘブル書11章13～16節 [リビングバイブル]

メリークリスマス！今夜主がお生まれになったこの記念すべき日を感謝します！

クリスマスのメッセージは幾つかあります。今朝のマタイ2章からまず見つけることができることは「新しい旅立ち」です。メシアである幼子に出会った博士たちは別の道を通って帰ってきました。しかも、それは天使のお告げという神様の介入によったということでした。

“人生は旅である”と良く耳にします。私たちは人生を生きていく中で、様々な環境の中で生きていきます。そして、様々な人々と出会います。そして、私たち自身がその出会いによって変化していきます。そう考えると、人生は何度でもやり直せるということが言えます。

レーナ・マリヤさんの映像を観ました。彼女は1968年生まれですが、25年位前から音楽活動をスタートし、すぐに日本での活躍が始まります。重いハンディキャップを背負っておられることを、全く感じさせられないほどの強い意志と、神様への感謝の思いによって、生き生きと歩んで来られました。自国のスウェーデンよりも、日本での活躍の方が盛んで、そのことが自国のスウェーデンでも驚いて番組が造られました。

その中で、人生での様々な人々との出会い、スタートは家族との出会い、障害を持って生まれてきたことの苦悩と葛藤。水泳選手としての活躍、音楽家としての活躍。しかし、そんな華々しい活躍の裏で、結婚と離婚という苦悩も経験されました。しかし、そんな人生の中でも、すべてのことに対して彼女は前向きであったということ、そして、今も前向きであるということ。スウェーデンのテレビでの放送だったので、明確にキリスト教のことは語られていませんでしたが、本来ならレーナさんは、「自分の人生をこのように導いてくださったのは、神様です。イエスさまです。」と明確に語りたかったのではないかと思います。

私たちの人生の中でも、幾つもの難所と言われる所を通過することがあります。そのすべての局面で、私たちは選択を迫られます。それが「新しい旅立ち」です。私たちの人生の道を切り開くのは直接的には私たち自身ですが、周りの人々の助けも借りながら前進する訳ですが、そのすべてに恵みに満ちた神様の御手があることを感じつつ決断したいと願います。